



店外や駐車場の照明もすべてレンタル。レンタル料は、前年の電気料金（照明分）からLEDに換えた場合の電気料金（計算値）の差額から算出。ホールの場合、照明の使用時間がほぼ確定しているため、計算通りの数値になるという



昨年4月にアクシアのLED照明を導入した福島県郡山市にあるニラク安積店（パチンコ320台、パチスロ160台）。LEDの欠点であるギラつきを抑え、光を拡散させる特殊カバーを付けたアクシア製の照明が、店内全体を明るく見せている

同店ではリニューアルに合わせて導入したが、系列店の中には閉店後に工事を行った店舗もあるとか。工期は約3日。既存の照明を併用しながら段階的にLED照明に換えていくので、店休をとる必要がない

LEDレンタル ●(株)アクシア

# キャッシュアウトなし! 費用不要のレンタルシステム

CO<sub>2</sub>削減という社会的要請に伴って、ホール業界でも照明のLED化が着実に進んでいる。新店が店内はもちろん、事務所や駐車場を含め、LED照明にするとは、もはや常識といえるだろう。しかし、既存店の場合、500台クラスで店内外のすべての照明をLEDに換えるとなると、1000万円超の投資となることから、どうしても後回しになってしまいがち。

そんなホールにおすすみたいなのが、アクシアのLEDレンタルだ。同社のLEDレンタルの特徴は大きく四つ。①工事費含め、初期費用が一切からない。②レンタル料は月々の電気代の削減分から徴収。③5年間の補償付きで、その間のメンテナンス費用が不要。④5年後、ホールに無償譲渡となること。

つまり、キャッシュの持ち出しは一切なし。極端な話、来月からでも完全LED化が可能なのだ。このレンタルスキームを利用しているのが、東北・関東に54店舗を展開する大手ホール企業・ニラク。店舗開発部の安藤二美男マネジャーも「キャッシュアウトしないので、どの時期からでもスタートできるのが、このレンタルの魅力」と語る。

障がい者雇用など、これまでも積極的に社会貢献活動に取り組んできた同社としても、使用電力の削減は「行わなければならない」

との認識だったという。とはいえ、「出店はもちろん、リニューアルや新台購入とさまざまな部分で出費が見込まれる業界」だ。予算組みしなくてもLED化を推進できる、このスキームはまさに「渡りに船」だった。

タダといっても製品が粗悪であれば意味がない。アクシアのLED照明は自社開発で、チップはフィリップス社製。LED照明では珍しいハイパワーLEDを使用しており、業界トップクラスの品質を誇る。

事実、ニラクではこの1年間で9店舗に導入しているが、「不具合は2個あったかなという程度。不良率が極端に少ないのには驚きました」と、安藤マネジャーも製品の信頼性には太鼓判を押す。

導入店のスタッフからは「遊技台が見やすくなった」「明るくなって清潔感が出た」との声が届いている。

これは、同社のLED照明が照度を落とさず、不快なまぶしさを低減する特殊な「拡散光学カバー」を自社開発し、空間全体を均等に明るくすることができるからだ。

春には10店舗目の設置が完了するというニラク。来年度も数店舗の導入が予定されている。

LED照明の導入を考えているホールは、少なくないはず。「でも、予算が」というホール企業に、もってこいのLEDレンタル。ぜひ一度、検討してほしい。